

令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 中島 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和5年6～7月に、5年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思っております。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部です。

1. 調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

(2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

※ 本校の5年生は単学級ですので、個人が特定されないことがないよう、公表の方法について配慮しています。

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市の実技調査の結果

<男子>

| 本年度の結果 | 握力 | 上体起こし | 長座体前屈 | 反復横とび | 20mシャトルラン | 50m走 | 立ち幅とび | ソフトボール投げ | 体力合計点 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-----------|------|--------|----------|-------|
| 全国 | 16.13 | 19.00 | 33.98 | 40.60 | 46.92 | 9.48 | 151.13 | 20.52 | 52.59 |
| 本市 | 16.30 | 19.17 | 34.49 | 40.75 | 49.29 | 9.48 | 152.47 | 21.39 | 53.38 |

<女子>

| 本年度の結果 | 握力 | 上体起こし | 長座体前屈 | 反復横とび | 20mシャトルラン | 50m走 | 立ち幅とび | ソフトボール投げ | 体力合計点 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-----------|------|--------|----------|-------|
| 全国 | 16.01 | 18.05 | 38.45 | 38.73 | 36.80 | 9.71 | 144.29 | 13.22 | 54.28 |
| 本市 | 16.35 | 18.36 | 38.88 | 38.78 | 39.26 | 9.70 | 145.97 | 13.51 | 55.18 |

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析

- ・運動への関心・意欲・態度に関する項目では、「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、「好き」や「やや好き」の割合が男子は全国平均を下回っており、女子は全国平均よりやや上回っていた。
- ・1週間の総運動時間に関する項目では、「学校の体育の授業以外で、1日にどのくらいの時間、運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをしていますか」に対して、男女ともに1週間の総運動時間は全国平均を下回っている。地域のスポーツクラブに所属している児童とそうではない児童がいることも影響していると考えられる。
- ・体育の授業に関する項目では、「体育の授業は楽しいですか」に対して、「楽しい」や「やや楽しい」の割合が男子は全国平均を下回っており、女子は全国平均と同程度であったが、いずれも肯定的な回答が80%程度で多くを占めていた。また、「体育の授業で、目標（めあて）を意識して学習することで、『できたり、わかったり』することがありますか」に対して、「いつもある」や「だいたいある」の割合が80%近い高い割合だった。「友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、『できたり、わかったり』することがありますか」に対して、「いつもある」や「だいたいある」の割合が70%を超える高い割合だった。ICT機器の活用については、まだ十分ではないため、効果的に活用し、児童の体力向上に生かすようにする必要がある。生涯スポーツの観点からも、体育科学学習の意義を児童に意識させる必要もある。
- ・健康に関する項目では、「朝食は毎日食べますか」に対して、「毎日食べる」「食べない日もある」の割合が全国平均を下回っている。一方で、「毎日どのくらいねていますか」に対して、9時間以上と答えた児童の割合は、全国平均よりも上回っており、睡眠時間は確保できていることが分かる。また、「平日、学習以外で、1日にどのくらいの時間、テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見ていますか」に対し、視聴時間が全国平均を上回っていることから、運動時間を確保できない要因の一つとなっていると考えられる。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・運動場や体育館、どのような学びの場においても、「めあて」「まとめ」「振り返り」を定着させた学習を行う。
- ・授業の中で、ICT機器を活用することで、自分の動きを客観的に見たり、ペアやグループで教え合ったりすることによって、自分自身の課題を見付け、「動きの質の向上」を図るようにする。
- ・個の体力に応じた活動を行うことができるように、学習の場を工夫する。達成感をもった学習となるようにする。
- ・新体力テストの結果を受けて、体ほぐしをしたり、体力を高めたりする体づくり運動を充実させる。
- ・新体力テストでは、測定方法や場の設定に関する職員研修を行うとともに、体力測定週間を設け、全学年で取り組む。また、全国平均の記録や各学年の記録を掲示することで、意欲の向上を図るようにする。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

- ・週に1回(毎週火曜日)の中休み、全校外遊びを行い、外での活動に意欲的に取り組めるよう働きかける。
- ・1月中休みは、「みんなで走ろう週間」として、全校で5分間走に取り組み、体力を向上しようとする児童の育成を図るようにする。